

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかきょういくだいがくふぞくこうとうがっこうひらのこうしゃ				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	大阪教育大学附属高等学校平野校舎					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	123	117	118		358	普通科 358名	
⑥研究開発構想名	多面的に“いのち”を考えるグローバルリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	アソシエイト校の実績をいかしながら、 I. 国内外のフィールドワークを含む課題研究の充実、II. 全教科におけるアクティブ・ラーニングの導入及び学校設定科目「生命の倫理」「公共と経済」の新設 により、多面的に“いのち”を考えるグローバルリーダーを育成する。 また、 III. 独自の評価指標を開発しカリキュラムの改善 を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>多面的に“いのち”を考え、グローバル課題を発見し、解決に向けて主体的にアクションを起こすことができるグローバルリーダーを育成するために必要な資質能力として、 「4つの力」(課題解決力、コミュニケーション力、多文化理解力、セルフマネジメント力) を育成する。また、カリキュラム改善のための独自の評価指標を開発・検証し普及させる。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>[生徒の現状分析] 教員による分析及び1年生に実施したPROG調査(様式6参照)の結果、強みは、意見主張力、主体的行動力であり、向上させるべき力は、課題解決力(特に情報収集・分析力、計画立案力)とセルフマネジメント力であった。また、海外での学修・就職希望者は多いが、体験不足による自・他文化理解の不足や外国語によるコミュニケーションの苦手意識から、“世界”へ踏み出すことを躊躇する内向き志向の者もいる。</p> <p>[研究開発の仮説]</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「いのち”をテーマとした課題研究の取組」及び「教科」の学習を通して、 「4つの力」を身に付けさせることで、次代のグローバルリーダーを育成できる。</p> </div> <p>(3) 成果の普及</p> <p>① 開発した課題研究の指導方法・教材・評価方法(平野メソッド)を整理し、出版する。 また大阪教育大学の教員志望の学生や現職教員に情報発信する。</p> <p>② SGH校や海外高校の生徒が参加する「課題研究成果発表会」を主催し、成果を発信する。</p> <p>③ グローバルリーダーの資質能力に関する評価指標を検証し、普及させる。</p> <p>④ 取組に関する学校関係者対象の発表会を毎年行い、成果と課題を発信する。</p> <p>⑤ 本校ホームページ(英語/日本語)に情報公開、生徒の研究成果を動画サイトに投稿する。</p> <p>⑥ 大阪市等の地域産業交流会で、ビジネスモデルを企画し、発表する。</p>					
		⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ：「いのち”をつなぐ、守る、支える」ためのアクションプランの提案・実践</p> <p>“いのち”という包括的テーマを多面的に考えることは、グローバルリーダーにとって不可欠である。そこで、アジア・大阪をフィールドにした研究領域①～③を設定する。</p> <p>① 医療・保健…乳幼児の高死亡率や感染症、高齢者介護等について、制度、文化、政治、風土等の視点から探究させる。[例] 日本の母子手帳の特徴を考察し、識字率などアジアの文化風土を勘案した母子手帳を作成し、普及の方策を提案する。</p> <p>② 防災・減災…有事・平常時におけるまちづくり・くにづくり・ひとづくりについてレジリエントな視点から探究させる。[例]「大阪の防災マップづくり」の学習成果に基づいて「タイの防災マップ」を作成し、普及の方策を提案する。</p> <p>③ 格差・貧困…格差や貧困の現状と背景を学び、ソーシャルビジネスやNPO・NGO</p>				

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>等を参考にして、その解決方策を探究させる。[例]大阪及びタイにおける格差・貧困問題の原因を探究し、解決のための具体的な提案・発表をする。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>○本校の課題研究における探究プロセス：「課題発見のための情報収集・分析」→「テーマの絞り込み」→「研究計画立案」→「課題解決のための情報収集・分析」→「考察・討論」→「具体的な提案・実践」→「評価」→「新しい課題発見のための情報収集・分析」…を繰り返して実践させることで、「4つの力」を育成する。</p> <p>○多面的に考える力の育成：各研究領域内での「グループ内討議」や「グループ間討議」、3つの研究領域を越えた「研究領域間討議」を意図的に組み入れる。各課題の背景にある共通点や相違点を理解させ、課題の解決方法を様々な視点から考えさせる。また、3年間を通して「個人→グループ→全体→個人→グループ→全体…→個人」の形態を計画的に組み入れることで、多面的に考える力を育成する。最後に、一人ひとりに包括的な視点で「いのちに係わる提案」について考えさせ、総括論文にまとめさせる。</p> <p>○3年間の課題研究の実施方法 *FW：フィールドワーク</p> <table border="1" data-bbox="323 696 1441 1084"> <tr> <td data-bbox="323 696 368 808">1年 生</td> <td data-bbox="368 696 1441 808"> ① 3つの研究領域について、アジアと大阪の関係を理解する[反転学習・講義] ② 大阪の課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ アジアの現状と課題について課題を発見する[反転学習・講義] </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 808 368 965">2年 生</td> <td data-bbox="368 808 1441 965"> ① 研修旅行（タイ、全員）で3つの研究領域の課題について認識を深める[FW*] ② アジアの課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ 即興型英語ディベート及びタイ、フィリピン等の高校生と討論する[Skype] ④ 研究領域間討議で新たな課題を発見し、更なる研究へ発展させる[ジグソー] </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 965 368 1084">3年 生</td> <td data-bbox="368 965 1441 1084"> ① 課題解決策を提案し実践につなげる[アクションプラン・論文(日・英)] ② 意識の高い生徒を選抜し、提案の実現性について現地調査する[アジアFW*] ③ 本校主催の発表会や各種コンテストで成果を発表する[プレゼン・総括論文] </td> </tr> </table> <p>※高度な知識技能習得：大阪大学国際医療センターの講義受講(単位認定、希望者)。</p> <p>○学校設定科目「生命の倫理」「公共と経済」を新設し、課題研究推進に必要な基礎知識やスキルを習得させる。</p> <p>○指導体制：大阪教育大学、大阪大学(SGHに係わる協力協定締結。特に人間科学部、GLOCOL)、京都大学(レジリエンス研究ユニット等)、関西学院大学、サラヤ(株)、(有)ビッグイシュー日本、大阪市危機管理室等と本校教員が連携・協働し、生徒の研究活動を指導する。</p> <p>○検証評価：PROG 調査で生徒の変容を確認するとともに生徒へのヒアリングを実施する。また、課題研究の各ステージにおける生徒成果物をポートフォリオとして集積し、作成したルーブリック等をもとに「4つの力」の習得状況及びカリキュラムの有効性を検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>「社会と情報」(2単位)を1単位に減じて「総合的な学習の時間」に振り替える。</p> <p>「保健」(2単位)を1単位に減じて学校設定科目「生命の倫理」(1単位)を設ける。</p>	1年 生	① 3つの研究領域について、アジアと大阪の関係を理解する[反転学習・講義] ② 大阪の課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ アジアの現状と課題について課題を発見する[反転学習・講義]	2年 生	① 研修旅行（タイ、全員）で3つの研究領域の課題について認識を深める[FW*] ② アジアの課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ 即興型英語ディベート及びタイ、フィリピン等の高校生と討論する[Skype] ④ 研究領域間討議で新たな課題を発見し、更なる研究へ発展させる[ジグソー]	3年 生	① 課題解決策を提案し実践につなげる[アクションプラン・論文(日・英)] ② 意識の高い生徒を選抜し、提案の実現性について現地調査する[アジアFW*] ③ 本校主催の発表会や各種コンテストで成果を発表する[プレゼン・総括論文]
1年 生	① 3つの研究領域について、アジアと大阪の関係を理解する[反転学習・講義] ② 大阪の課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ アジアの現状と課題について課題を発見する[反転学習・講義]						
2年 生	① 研修旅行（タイ、全員）で3つの研究領域の課題について認識を深める[FW*] ② アジアの課題をグループで研究し、成果を提案する[FW*・プレゼン・小論文] ③ 即興型英語ディベート及びタイ、フィリピン等の高校生と討論する[Skype] ④ 研究領域間討議で新たな課題を発見し、更なる研究へ発展させる[ジグソー]						
3年 生	① 課題解決策を提案し実践につなげる[アクションプラン・論文(日・英)] ② 意識の高い生徒を選抜し、提案の実現性について現地調査する[アジアFW*] ③ 本校主催の発表会や各種コンテストで成果を発表する[プレゼン・総括論文]						
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>①全教科でアクティブ・ラーニングを導入し、生徒が能動的に協働する双方向型授業を展開し、課題解決力及びコミュニケーション力を養う。</p> <p>②大阪教育大学アセスメントグループ(仮称)と連携して独自の評価指標を開発する。課題研究及び教科等のカリキュラムの教育効果を測定し、その妥当性を検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし。</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>外国語運用能力の向上として、e-learningによる自学自習の環境を整備し、カナダ語学研修、台湾交換留学、ASEPへの参加を推奨する。</p>						
<p>⑨ その他 特記事項</p>	<p>大阪教育大学との接続入試の整備。インクルーシブ教育システム構築モデル事業(文部科学省指定。平成25年度)。文部科学省指定学力向上拠点形成事業を受託(平成18～20年)。「総合的な学習の時間」に関する大阪教育大学附属平野中学校との共同研究。高雄師範大学附属高級中学[台湾]及びトリナムウドムスクサ高校[タイ](協定締結校)</p>						

ふりがな	おおさかきょういくだいがくふぞくこうとうがっこうひらのこうしゃ	指定期間	27～31
学校名	大阪教育大学附属高等学校平野校舎		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	360人
	SGH対象生徒以外:	48人	58人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全員がSGHの活動を通して社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組むことを目指す。(分母は全校生徒360人)									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	90人
	SGH対象生徒以外:	33人	26人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: アンケート結果より、「自主的に語学又は海外研修に行ったことがある」生徒が昨年度9.2%、今年度8.0%であり、「自主的に語学又は海外研修に行きたい」と答えた生徒が昨年度21.0%、今年度26.5%であった。課題研究や海外研修など機会の増加に伴い、自主的に参加する人数が増えることが見込まれる。全校生徒の25%を目標値とする。(分母は全校生徒360人)									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	60.1%	62.1%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: アンケート結果より、過半数が希望を持っているが、SGHの活動により希望者が80%に増加することを目標とする。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	3人	6人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究やグローバルな取組の成果を積極的に発表するなど、入賞者は増加すると考えられる。目標数は全体の5%強とする。(分母は全校生徒360人)									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	20%	22%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHでの活動の中で、英語を活用する機会が大幅に増加し、技能の向上が見込まれる。									
(その他本構想における取組の達成目標) 「課題研究」は有意義であると答える生徒の割合									
f	SGH対象生徒:								90%
	SGH対象生徒以外:		63%						
目標設定の考え方: 研究開発単位 I の評価として、毎年意識調査を行う。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
--	------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	35%
	SGH対象生徒以外:	27.8%	29.6%	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: SGHの活動により、毎年、国際化に重点を置く大学への進学者が増加すると考えられる。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	1人	1人	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: アンケート項目の「海外の大学に進学したいか」に対して「はい」と答えて具体的な国名を答えた生徒は、昨年度4.1%、今年度3.5%であった。経済的な側面も関係するため、この目標値は「はい」と答えた生徒の割合を基準に考える。(分母は1学年120人)

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: 3年間の課題研究により興味関心が深化し、研究内容に関連する分野に進む生徒が増加することは十分考えられる。

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	25人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: アンケート項目のうち、「大学に入ってから3ヶ月以内の短期留学をしたい」と回答したは65%、「大学に入ってから3ヶ月以上の長期留学をしたい」と回答した生徒は36%であった。SGHの活動により、さらに希望者が増えるものと考えている。(分母は1学年120人)

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標 (アウトプット)								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	2人	人	人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: SGH指定後は、課題研究を目的とした「タイ研修旅行」に2年生120人全員が行き、続いて3年生約30人が「海外フィールドワーク」に行く計画である。(分母は全校生360人)								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	20人	人	人	人	人	人	120人
目標設定の考え方: 課題研究を目的とした「大阪フィールドワーク」に第1学年120人全員が行く。また、第2学年では課題研究に関する「国内フィールドワーク」に希望者が行く。(分母は全校生360人)								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	3校	校	校	校	校	校	6校
目標設定の考え方: 現在協定校も含め海外の高校3校と連携が図られている。SGHとして課題研究では、研究の深化を図るため、アジアの高校・大学との連携がさらに拡大する予定である。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	7人	35人	人	人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 大学教員40人、学生20人と想定。(留学生は年間50人を目標とするが、加算していない)								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	16人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: すでに、企業関係者2人が講演し、定期的に探究活動の指導をしている。課題研究の単位数を増加するため、今後も回数が増加する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	1人	1人	人	人	人	人	人	16人
目標設定の考え方: 国内外の大会入賞者数を8人(2グループ)と予測している。参加者数は、それらのエントリー数と考え、おおよそ4グループエントリーと予測し、16人を目標数とした。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	6人
目標設定の考え方: 今後留学生受け入れ制度を整えることにより、提携校等からの留学生受け入れを積極的に行う。1・2年生各クラス1人を目標にする。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 大阪府内発表年2回 近畿圏内発表年1回 全国発表 年1回 とする。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	△						○
目標設定の考え方: 課題研究の研究内容や指導法、評価法等を更新していく。(月1回程度)								
(その他本構想における取組の具体的指標) 課題研究等に関するディスカッションを海外の高校生と行った生徒の数								
j	0人	0人						120人
目標設定の考え方: 第2学年の課題研究で、3つの海外の高校と生徒間のディスカッションを行う。(分母は1学年120人)								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	360人	360人	360人	360人	360人	360人	360人
SGH対象生徒数			120人	240人	360人	360人	360人
SGH対象外生徒数			240人	120人	0	0	0